

観察と柔軟な発想と構成要素の関連を考えてイメージを視覚化する

美術教育・千代田憲子

1. 授業の概要

本授業は、学校教育実践コース(美術)と造形芸術コースの専門教育科目の必修科目として1年次前期に実施している。デザイン分野の基礎科目であり、この後の展開科目にはビジュアルデザイン I・II があり、関連科目としてコンピュータデザイン実習がある。造形芸術コースの2年生がデザインを専攻した場合はデザイン課題研究 I・II・III・IV と卒業研究へと繋がる。

今期の受講生数は学校教育実践コース(美術)2年生1名と造形芸術コース1年生11名と重複履修の3年生1名で計13名である。2コマ継続する4つの実技科目を1年次後期時間割に全て配置することは不可能なために、専修振り分け後の受講は2年次となる。

<授業の目的>

色彩と形態・平面と立体・材質感などの関連を考えたイメージの視覚化・具現化を目指す。また、確かな観察力と柔軟な発想で多様な表現へ展開する。

<到達目標>

- (1)モチーフを点・線・面による構成に置き換え、新たなイメージを加える。
- (2)表現技法のトレーニングを通して、イメージと結びつけた多様な展開をする。
- (3)テーマに関連する立体物を映像メディア表現を用いてまとめて伝える。

<関連するディプロマ・ポリシー>

学校教育実践コース(美術)

教科・教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。(知識・理解)

子どもの発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができ、個に応じた指導や説明ができる。

(技能・表現)

造形芸術コース

造形芸術全般にわたる確かな知識と、得意とする分野における高度な専門的知識を修得している。(知識・理解)

地域社会の造形芸術分野に関する文化振興に

貢献するため、高度な技能と豊かな表現能力を身につけている。(技能・表現)

<授業の方法など>

まず、平面・色彩構成の課題制作により、モチーフの簡略化や構成を通して形態を考え、配色計画による多色配色を行う。次に、表現技法トレーニングの課題制作により、テクスチャ・ユニットパターン・オートマチックなどの多様な表現を通して、イメージを視覚化する。最終課題の映像メディア表現のデザインでは、ストーリーの展開を加えて不思議な世界や空間を表現する。合評時に、教材への展開の可能性も検討する。

第1回 ガイダンス—用具と課題の説明。

第2回—第5回 平面・色彩構成—モチーフの選択をして、アイデアを多数展開する。リズムやバランスなどを考慮しながら構成を決定して下描きに移る。無彩色と有彩色の配色計画を立てた後に、彩色する。

第6回—第10回 表現技法トレーニング—前課題の合評後、表現技法トレーニングに入る。テクスチャ・ユニットパターン・オートマチックなどのトレーニングで多様な表現に取り組む。アイデアを多数展開して、イメージを視覚化する。

第11回—第14回 映像メディア表現のデザイン—前課題の合評後、映像メディア表現のデザインに入る。テーマに関連する立体物を多数撮影し、ストーリーを展開する。各要素を構成・編集してバーチャルで不思議な世界を効果的に表現する。

第15回 合評・総括

<今年度意識した取り組み>

表現技法トレーニングにおいて、①イメージ×テクスチャ②テクスチャ×ユニットパターン③オートマチック×ユニットパターン×イメージと表現技法を組み合わせた課題とすることで、複雑にはなるが、より高度な取組みを目指した。

2. アンケート結果(自由表記)

①平面・色彩構成に対する感想

・アイデアが重要だと気づいた。

- ・アイデアをたくさん描くのがきつく、大変さを感じ知った。
- ・合評が一番勉強になるということがわかった。
- ・手作業なので、微妙なところまでこだわる必要があった。
- ・線の取捨選択にとっても悩んだ。
- ・イメージがまとまりにくく、悩んだ。
- ・アクリルガッシュの使用にとまどった。
- ・すべきことが明確で計画的に取り組めた。
- ・簡略化やデフォルメの難しさを感じた。
- ・明度や彩度などが思い通りの色を作るのに苦労した。

・色彩や形態に対する感覚が磨かれて良かった。

②表現技法トレーニングに対する感想

- ・苦労したが新たな発見もあり楽しかった。
- ・難しかった。
- ・課題の内容を理解するのに苦労した。
- ・意味が分からなくなったが世界は広がった。
- ・作業を進めるにつれ、どんどん発想が出てきて楽しかった。
- ・イメージを反映するのが難しかった。
- ・写真撮影は楽しかった。
- ・思い通りに行かないことの良さ悪しを知ることが出来た。
- ・手を動かして作るのはやりやすかった。
- ・想像力が乏しく、何と何が結びつくのか出てこなかった。
- ・日頃から色んなものに目線を向けることが大切なのだ気付いた。
- ・段ボール素材に対して新たな発見が多くあった。
- ・万華鏡の配置にすることで幻想的なものになった。

③映像メディア表現に対する感想

- ・前回の課題との関係やアイデアを考えるのが面白かった。
- ・文字やレイアウトをもっと凝りたかった。
- ・写真に合わせた物語を作ることが一番楽しかった。
- ・課題の条件がわかりにくかった。
- ・自分の意志の表現方法が多くて、何が最善なのか見極めるのが大変だった。
- ・ストーリーから作っても、写真から撮っても、合わせるのが大変だった。
- ・勉強になったが、もっと時間をかけたかった。
- ・写真を色々な視点から見る事が出来た。
- ・オノマトペも使用して2パターンの差異を考えたり見たりするのは楽しかった。

④この授業の良かったところ

- ・講評も制作も楽しかった。
- ・取り組んでいるという感じが楽しかった。
- ・合評で積極的に意見を言い合えること。

- ・制作時間が多かったところ。
- ・教室がきれい。
- ・デザインへの取組みの心構えなど、講評がためになる。

- ・すべきことが明確で頑張れた。
- ・とても勉強になった。
- ・視点を変えて見る事が出来た。

⑤ この授業の改善点や取り組みたい課題

- ・制作時の私語がうるさかった。
- ・平行制作がきつい。
- ・課題の量が多くてついていけない。
- ・必要な画材が多く、金銭的に辛かった。
- ・授業の時間を有意義に使えなかった。
- ・自分の準備がなければ、何もすることがなかった。
- ・一人一人ちがう課題をしても良いと思った。

⑥ この授業でどのようなことを得ましたか

- ・様々な画材、技法、素材を用いて使いこなすこと。
- ・むらなく色を塗り、カッターを使いこなすこと
- ・技術力やものづくりへの姿勢。
- ・表現力。
- ・パソコン作業のデメリット面の把握と写真加工の技術。
- ・計画性。
- ・時間配分の大切さ。
- ・理解への努力。

⑦授業後のアップ率:およその目安

技術 5-70%・考え方 10-85%・感性が 5-80%アップしていたとの回答があり、平均するとそれぞれ 40%・43%・45%となる。

⑧モチベーション:およその目安

中盤から後半にかけて上昇した者は3名、下降3名、中盤下降4名であり、平均すると前半65%、中盤51%、後半59%となる。

3. 総括

〈アンケート結果を踏まえた、次年度への改善点〉

活発な感想から制作や合評を楽しんでいることは伺われるが、モチベーションの平均が高いとはいえ残念である。また、授業後半部で課題内容の理解に混乱も生じているようで、分かりやすい説明が必要とされており、より丁寧なアプローチと併せて新たな対応を考えることが今後の課題である。

〈授業の目的、到達目標、関連 DP を踏まえた総括〉

デザインの基礎を学ぶ実技の授業として段階的に複雑な課題へ進行している。授業の目的・目標や関連DPの(知識・理解)(技能・表現)はおおよそ達成しているが、合評時に行っている教材への展開の可能性をより充実した検討とするためにも、学校教育実践コース(美術)の受講生増を望む。